

平成28年度

# 学校評価



福島県立安積高等学校

# 平成28年度自己評価実践報告書

学校名 福島県立安積高等学校 本校

## I 自己評価の概要

### 1 『学校経営・運営ビジョンについて』

#### (1) 『学校経営・運営ビジョン』

本校の校訓にあたる『安積の精神』、教育目標と教育方針、学校長の方針を記し、重点目標として「進路の実現」「教育環境の整備」をその柱に据え、これに基づくより具体的な目標を6項目掲げ、その実現のための取り組みを12項目にまとめた。

#### (2) 教育目標、重点努力事項等の作成のねらい

「開拓者精神」「質実剛健」「文武両道」という安積の精神は、本校の伝統として長い年月、脈々と受け継がれており、平成26年度には創立130周年を迎え、記念式典が挙行された。本年度は132年目に当たる。この安積の精神は、各界で活躍する多くの同窓生の精神的な拠り所にもなっている。

また、「全人教育を目指し、知徳体を錬磨し次代を担い人類に貢献できる志高く有為な人材を育成する。」という教育目標は、本校に学ぶ生徒の理想とするものであり、保護者、地域の期待でもある。

#### (3) 『学校経営・運営ビジョン』の内容

##### 【本校の4つの教育方針】

以下の4つの方針も、本校の伝統として長く受け継がれてきたものである。

- ① 個性を伸長する。
- ② 知性と情操と実践力を養う。
- ③ 自主自律の精神を培う。
- ④ 真理と正義を愛する、質実にして真摯な人物を育成する。

##### 【本年度の重点目標】

教育目標、教育方針に基づき、前年度の反省と分析から下記の2つを柱とした。

- ① 進路の実現
- ② 教育環境の整備

##### 【具体的な目標】

下記の6つを掲げた。

- ① 「安積の精神」の実践
- ② 進路意識の高揚
- ③ 高い学力の定着
- ④ 自主自律の精神の涵養
- ⑤ 美化意識の高揚
- ⑥ 保護者及び後援組織との連携

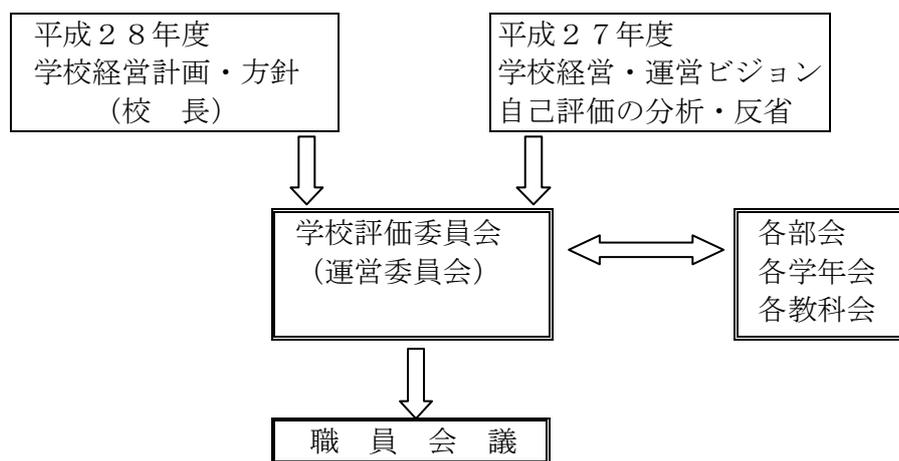
##### 【具体的な取り組みの項目】

上記目標達成の拠り所となる具体的な取り組みを、下記の12項目にまとめた。

- ① 「安積の精神」を実践することにより伝統校としての誇りを受け継ぎ、生徒の自尊心や向上心を高め、授業や部活動に対する意欲を向上させ、高い志を持った生徒を育成します。

- ② 家庭学習と自学自習の習慣を身につけさせ、目標を立て、自ら学びに向かおうとする姿勢を育成します。
- ③ 授業第一主義のもと、授業研究による学習指導法の研究を行うなど教職員としての力量を高め、生徒のニーズに適合した質の高い授業を行います。
- ④ 安積セミナー、大学見学会、各種講演会等を実施し、早期に生徒に高い進路目標を設定させ、定期考査、校内模擬試験の質を高め、難関大学入試に合格できる学力を養成します。
- ⑤ 部活動終了時刻（19：00）の徹底や土曜開放の実施等により、学業と部活動のけじめをつけ、家庭学習の時間を確保しつつ部活動の更なる活性化を図り、「文武両道」の実践を行います。
- ⑥ 定期的な個人面談や生活・学習の実態調査を行い、教育相談やカウンセリングを取り入れながら、生徒一人一人の進路実現を計画的に支援します。
- ⑦ 学校行事や生徒会活動、部活動等の集団活動を通して生徒の豊かな人間性を育成し、自ら学び深く考える態度を身につけた、社会や世界で活躍できる有為の人材を養成します。
- ⑧ 施設設備の整備に努め、併せて清掃活動の徹底と教室内の整頓等により、校内の美化と生徒自らが学習環境を整えようとする姿勢を育成します。
- ⑨ 面談等を通して生徒一人一人の理解に努め、進路指導や心の安定化を図り、スクールカウンセラーと連携しながら、悩みや不安を抱えた生徒への支援を行います。
- ⑩ 学校ホームページや新聞の発行などを通して積極的な広報に努め、保護者や地域社会との連携を深めます。また、PTA、安積桑野会(同窓会)、桜桑会(後援会)と連携しながら、生徒の活動の充実を図ります。
- ⑪ 校内の大規模改修工事も年度初めに終了するため、よりよい学習環境のもとで教育活動を行います。
- ⑫ 伝統校「安積」の教職員であるという誇りと自覚を持ち、自らの専門性と人間性を高め、地域社会から信頼される教師集団を形成します。

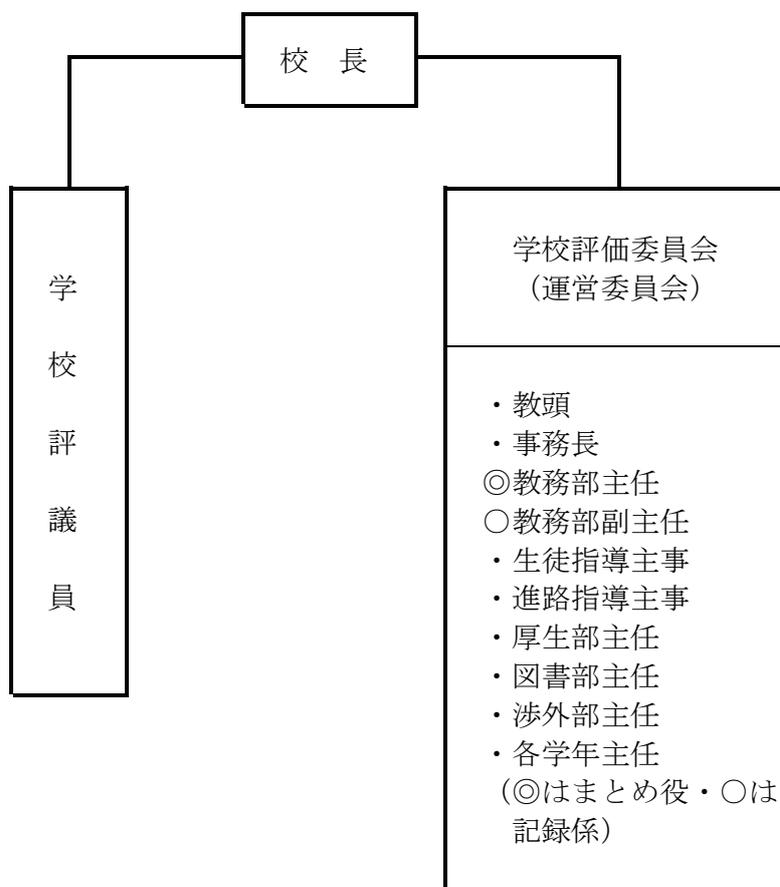
#### (4) 学校経営・運営ビジョン作成のプロセス等



※平成27年度の学校経営・運営ビジョン、自己評価の分析・反省をもとに、各部、学年、教科が、平成28年度の重点目標について検討し、校長の学校経営計画・方針に基づき、学校評価委員会（運営委員会）が中心となり作成した。

## 2 校内組織体制について

### (1) 組織図



### (2) 校内組織のねらい及び意図

校内の学校評価委員会は、運営委員会が兼ねている。業務内容は「学校経営・運営ビジョン作成」、「学校評価に関わる各種原案作成」、「各種資料の収集・整理・保管とその提供」、「その他、学校評価にかかわること」である。

## 3 自己評価年間計画について (PDCAサイクル)

### (1) 平成28年度年間計画

平成27年度の学校運営ビジョンの分析及び反省をもとに、部門(部、学年、教科)別に平成28年度の重点項目を決定



平成28年度教育目標、経営・運営方針・・・校長より提示



平成28年度「学校経営・運営ビジョン」の重点項目実践計画の策定



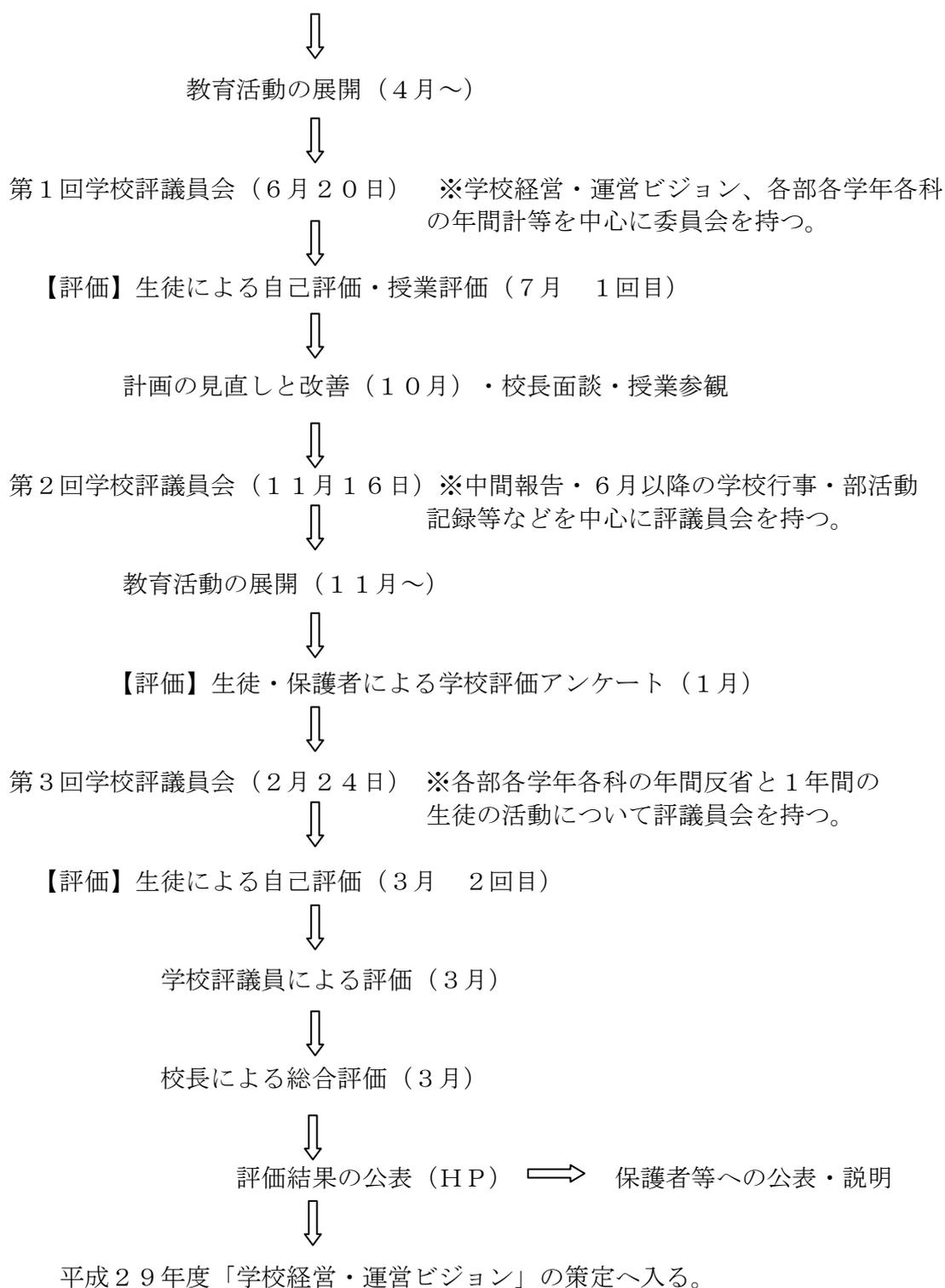
「目標・内容・方法・評価計画」を学校評価委員会(4月はじめ)に決定し、職員会議で提示する。



保護者等への公表・説明

PTA総会 4/29(金)

「各部・各学年・各科の年間計画」を作成する。(4月中旬)



(2) 作成のねらい及び意図

年間計画・中間反省をもとに、生徒や保護者の評価及び学校評議員による外部評価を生かす工夫をした。生徒による自己評価・授業評価、教職員人事評価にかかる自己評価と管理職による面談、管理職による授業参観、年３回の学校評議員会等が有機的に結びつき、効果があがるよう配慮した。

(3) 学校評議員会実施状況

第１回 平成２８年 ６月２０日（月）

第２回 平成２８年１１月１６日（火）（学校評議員を含めた服務倫理委員会）

第３回 平成２９年 ２月２４日（金）（学校評議員を含めたいじめ対策委員会）

## II 評価結果の概要

### 1 実施方法等

評価については、各部、各学年、各教科において自己評価を実施し、職員会議で説明した。

- (1) 生徒からの授業評価（第1回）を、夏休み以降の授業に生かされるよう、夏休み前（7月）に実施し、授業改善に繋がるようにした。また、第2回目の授業評価を3月初めに実施する計画をたてた。
- (2) 教職員については、年度初めに作成した年間計画及び生徒、保護者へのアンケート結果を基に、中間評価、中間反省を各部・各学年・各教科で行い、年度末に年間反省を実施した。
- (3) 生徒へのアンケートは、ホームルームを活用し、学校評価及び授業評価の2種類を行った。生徒による授業評価については、授業に対する評価と生徒自身の学習に対する取り組みの自己評価との二本立てで実施した。また、学校評価については、昨年同様のアンケート調査項目で科目ごとに実施した。
- (4) 保護者への学校評価アンケートは、生徒を通じて保護者へ配付し回収した。なお、生徒と保護者とのアンケート内容を精査し、前年度と比較検討ができるよう工夫した。

※生徒・教職員による学校評価アンケート結果を昨年と比較し、運営委員会・職員会議で検討した。

### 2 アンケート及び回答数

アンケート 対象者	第1回授業評価アンケート（7月）			第2回授業評価アンケート（3月）		
	対象数	回答数	割合	対象数	回答数	割合
生徒	955	947	99.2%	637	集計中	集計中
アンケート 対象者	学校評価アンケート（12月）					
	対象数	回答数	割合			
生徒	951	926	97.4%			
保護者	951	591	62.1%			

### 3 評価基準について

評価	A	B	C	D
評価基準	よくあてはまる	ある程度あてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない

### 4 評価のまとめ

#### (1) 評価実施の目的、意図について

年度当初に設定した「学校運営ビジョン」に対する取り組み及びその達成の度合いを評価し、年度途中段階での問題点があれば修正を加えることにより、最終的に、より目標に近づけるように実施した。

評価の方法としては、生徒、保護者に対してアンケート調査を実施し、その集計結果等をもとに、各部、各学年、各教科において自己評価を実施した。

#### (2) 評価結果の分析及び結果概況

##### ① 学習に関する評価結果について（生徒対象 7月、3月実施）

評価A Bの割合は次のとおりであり、昨年同様全体にほぼ満足度の高い結果が得られた。特に生徒による教員の授業評価は90%以上がA Bの評価であり、全体としては高評価だったが、C Dの割合が0%の科目がある一方で、20%弱の科目も一部に

みられ、個々の教員にとっては自らの授業を見直す上で非常に貴重な機会となっている。

#### 7月実施結果のA B評価の割合

	生徒自身の自己評価		生徒による授業評価	
	H 2 8	H 2 7	H 2 8	H 2 7
1 年	8 5 . 0 %	8 8 . 7 %	9 3 . 4 %	9 4 . 8 %
2 年	8 7 . 8 %	8 8 . 9 %	9 5 . 7 %	9 3 . 3 %
3年文	9 6 . 0 %	9 1 . 6 %	9 6 . 0 %	9 3 . 2 %
3年理	9 3 . 2 %	9 1 . 1 %	9 3 . 9 %	9 5 . 0 %
全学年	8 8 . 3 %	9 0 . 1 %	9 4 . 5 %	9 4 . 1 %

#### ② 学校評価アンケート結果について (生徒・保護者対象)

生徒アンケートでは、A B評価の割合が86.3% (平成27年度86.4%) に、保護者アンケートでは、A B評価の割合が89.1% (平成27年度88.8%) であった。全体としての満足度は前年度同様に高い状態を維持しているものと考えられる。しかし、その中でも比較的A B評価の割合が低く、C D評価の割合が高い質問項目としては、次の項目があげられる。

##### (i) 生徒に対するアンケート結果でC D評価の多い項目とその対策について

ア 学校の環境を美しく保つことに力を入れている。

CDの割合 32.2% (昨年 32.7% 一昨年 43.4%)

イ 学習環境 (施設設備) に満足している。

CDの割合 30.8% (昨年 31.0% 一昨年 32.9%)

ウ 困っていることや悩みについて、気軽に相談できる先生がいる。

CDの割合 26.2% (昨年 29.1% 一昨年 27.1%)

エ 私は4月から現在まで学力向上のために十分な努力をしている。

CDの割合 25.6% (昨年 25.6% 一昨年 30.7%)

##### 【対策】

ア、イの美化や施設設備に関する部分では、一部校舎の耐震工事が完成したためやや改善されてきているが、依然3割以上の生徒があてはまらない側の評価としていることから、清掃活動等への取り組みに工夫が必要である。また、施設設備については改修工事等による解決が待たれる。

また、ウ、エの結果から、生徒は困りごとや悩みごとの相談の相手について、学力向上の努力などの自己実現や進路希望達成に対して多くの課題をもっていることがわかる。改善のためには、教職員が生徒の心に添って声かけや面談を行い、今までよりも多くの時間を生徒に費やし、生徒のやる気を引き出し意欲を高め、生徒に前向きな努力をさせる実践が必要である。

##### (ii) 保護者に対するアンケート結果でC D評価の多い項目とその対策

ア 学校の環境を美しく保つことに力を入れている。

CDの割合 23.3% (昨年 25.6% 一昨年 27.4%)

イ 施設設備は生徒の学習や生活がしやすいように整備されている。

CDの割合 26.1% (昨年 28.5% 一昨年 29.8%)

ウ 家庭との連絡や意思の疎通が十分にはかられている。

CDの割合 21.2% (昨年 21.2% 一昨年 23.5%)

エ 進路に関する相談や情報提供が適切に行われ、保護者との連携がとられている。

CDの割合 16.3% (昨年 17.1% 一昨年 17.1%)

##### 【対策】

昨年と同じ上記のア～エの項目について、C D評価の割合が全体としては高かった。ア、イの美化や施設設備の面については生徒に対するアンケートと同じ理由によるものである。

ウ、エについては保護者の子供への教育について高い関心を持ち、学校に対し

て自分の子供の情報や進路相談等の情報提供を求めているのに対し、十分に伝えることができていないことの表れである。当面可能な対応として学校HPなどで随時情報提供するなどする。

(3) 重点努力事項に対する取り組み状況

- ① 生徒、保護者へのアンケート調査について、各部、各学年、各教科が分析するとともに、Ⅰ期の反省がⅡ期に、今年度の反省が次年度に活かせるようにした。
- ② 生徒の授業評価と自己評価を教科担任の授業改善に反映させるようにした。
- ③ 各部、各学年、各教科で自己評価を行い、反省・次年度への課題をまとめて、学校評議員会と運営委員会を経て、職員会議において各部、各学年、各教科の代表が分析及び結果概況、今後の取組みについて報告した。

### Ⅲ 広報の概要

1 目的や意図

学校の教育内容について保護者の理解を得ることを目的に、学校案内、学年だより、進路だより、生徒会新聞、PTA新聞、各種様々な広報紙等の広報活動は勿論のこと、学校ホームページの充実と地域への更なる発信を行った。

2 実施状況

- (1) 学校評価については、まず「学校経営・運営ビジョン」を、PTA総会時に配付・説明し、学校評価に取り組むことを説明した。機会ある毎に、いろいろな場面で「学校経営・運営ビジョン」の理解を得よう努力した。
- (2) 学校のホームページについては、行事や講演会等の機会あるごとにその様子等を掲載するようにし、更新の機会を多くしている。
- (3) 学校説明会については、毎年希望者のいる中学校を中心に、生徒・保護者を対象にした学校説明会を実施している。学校パンフレットとパワーポイントを用いた説明により、わかりやすいものになっている。また、夏休み中の本校での学校説明会は、生徒中心の説明会にしており、生徒会作成のパワーポイントによる学校説明や放送部作成の学校案内のビデオ等により、わかりやすく楽しめる広報活動を行った。
- (4) オープンスクールについては、開かれた学校づくりの推進を図るため、「学校へ行く週間」の事業と絡めて実施し、保護者や地域の方々に生徒の姿や学校の様子を直接見ていただく機会とした。今年も学校を公開し、授業の様子や施設等を見学してもらい、教頭・教務部・生徒指導部・進路指導部・各学年主任との話し合いの場を持った。
- (5) 生徒の意見を直接聞く場として、生徒職員協議会を12月に開催した。校内の施設関係や、平成28年度の行事の持ち方等について話し合いがされた。その内容については、生徒会新聞により詳しく説明された。
- (6) 生徒の活動の状況については、学校ホームページに掲載するほか、生徒会新聞でインタビューを載せるなど広報に努めた。なお、本校の生徒会新聞は、前年度に引き続き全国高校新聞年間紙面賞で入賞し、平成29年度全国総文祭への参加が決定している。

3 配付物の配布対象、配布時期、配布方法

配 布 物	配 布 対 象	配 布 時 期	配 布 方 法
『学校経営・運営ビジョン』	保護者、学校評議員	保護者 4月末 学校評議員 6月	PTA総会資料として 第1回学校評議員会
学校案内パンフレット	中学生とその保護者	7月以降	説明会会場で配布
PTA会報	保護者、学校評議員	7月、3月	生徒を通じて
生徒会新聞	生徒、保護者、学校評議員	7月、3月	生徒を通じて、評議員には郵送

進路だより	生徒、保護者	4月、5月、7月、 10月、12月、3月	生徒を通じて
図書館報 (桑野文庫)	生徒、保護者	3月	生徒を通じて
学年だより	生徒、保護者	7月、12月、3月	生徒を通じて

#### 4 広報活動を実施してみたの反省等

- (1) 保護者へは生徒を通じての配布であるが、生徒が渡さなかったことから、うまく届かない家庭も見られた。
- (2) 学校ホームページは年度途中から更新作業が簡易に行うことができるものに切り替えたが、思ったほどの更新が無く課題が残った。次年度は更新を多くしていきたい。
- (3) 6月までに行われた中学生対象での高校説明会では、新年度用の学校案内パンフレットの印刷が間に合わなかったため、前年度のもののコピーを配布した学校もあった。次年度は早めに対応したい。
- (4) P T A会報については、紙面の拡充を図って発行した。内容が豊富になり、おおむね好評であった。
- (5) 今年度も、新聞等に生徒の活躍の様子などが取り上げられた。次年度も、生徒の活動をより活発にして、学校から積極的に情報発信を行い、多くの分野でマスコミに取り上げてもらえるようにしていきたい。

### IV 次年度へ向けて

#### 1 評価結果の特徴

生徒、保護者のアンケートを実施することにより、より客観的に本校の課題をより具体的に把握することができた。学校評価に保護者が参加することにより良い学校づくりに保護者の協力が必要不可欠であることを再認識している。生徒の授業評価には教員が授業に取り組む上で大きなヒントがあり、十分に活用していく必要がある。

#### 2 自己評価全体の次年度の取り組みについて

今年度の反省を基に次年度の取組を検討する。学校経営・運営ビジョンの柱となる部分は変わらないが、目的を達成するための項目等について、本校の課題を踏まえ、その課題解決につながるようなものに調整してゆくことが必要である。特に、学校評議員からの指摘があり課題が焦点化したものは、次年度の特徴的な取り組みとなるようにする。

#### 3 次年度へ向けての課題、改善点、重点努力事項、展望など

生徒・保護者アンケートで課題が明らかになっている重点目標の「教育環境の整備」に係わる校舎の美化、施設設備の充実、生徒の悩み事相談、家庭との連携などについての改善については前述の「Ⅱ 評価結果の概要」に記したので割愛する。

本校の次年度の第1の重点目標は本年同様「進路の実現」であり、そのためにも「学力向上」が重要な課題である。そのためには、教員一人一人の授業改善が第一である。教員同士の授業研究や管理職による授業評価をさらに改善していくなどして、教員の力量アップにつなげたい。それにより、最上位層とともに中・下位層へのきめ細やかな指導の徹底を図っていきたい。

#### 4 終わりに

安積高校が地域、そして県民の期待に添う学校として今後さらに発展するためには、今後とも生徒、保護者、地域住民、学校評議員等の協力を得て確かな自己評価を実践し、教育活動に改善を加えながら、本県の復興と未来を担う人材の育成に全職員一丸となって邁進していきたい。

## 学 校 評 価 票

A・・・達成できている。                      B・・・ほぼ達成できている。  
C・・・あまり達成できていない。            D・・・達成できていない。

評 価 内 容		A	B	C	D
自己評価 の取 組 状 況	1	組織的な評価活動がなされ、教職員に十分浸透している。	3		
	2	適切な評価計画が立てられ、評価活動が運営されている。	3		
	3	マネジメントサイクルが有効に機能し、改善に向けて取組みがなされている。	2	1	
	4	保護者、地域社会への情報提供、評価結果の公表等が十分なされている。	2	1	
学校経営 ・と 運 営 の ビ ジ ン グ の 状 況	5	生徒や学校・地域の実態を踏まえた適切な教育目標を設定している。	3		
	6	学校経営・運営ビジョンについて保護者等にわかりやすく提示されている。	1	2	
	7	重点目標「進路の実現」(学力の向上、進路意識の高揚、学習習慣の確立)については組織的な取組みがなされ達成されている。	2	1	
	8	重点目標「教育環境の整備」(美化意識の高揚、教育相談の充実、保護者・後援組織との連携)については組織的な取組みがなされ達成されている。		3	
そ の 他	9	地域社会との連携が十分なされている。		3	
	10	開かれた学校づくりに向けた取組みが十分になされている。	3		

○本校のよい点・特色について気付いたことをお書き下さい。

- ・リーダーシップを取れる教員が多く、それぞれの立場で力を発揮できる教員集団であり大きな力になる。時代の流れが高速化し情報量が増大しても、適切な判断力を持って対応でき、正しい方向へ進展できるものと思う。
- ・高いレベルでの学校運営がなされている。
- ・生徒たちが積極的に挨拶してくれて、校内の雰囲気明るく開放的な印象を持った。

○本校の教育活動をよりよいものにするためにはどうすればよいか、ご意見をお書き下さい

- ・学校全体が組織的に学校経営・運営ビジョンの目標に向けて努力していただきたい。
- ・増加傾向にある発達障害に対しては、生徒自身が自己分析できて、自分ができることとできないことを正しく理解し自分を活かす方向で対処できるような支援体制を構築していただきたい。
- ・盗難やいじめ防止など生徒指導のための実態把握については、生徒に対するアンケートを適切な頻度で行うなど、引き続き被害防止と早期発見に努めていただきたい。

○本校の教育活動について、その他ご意見がありましたらお書き下さい。

- ・本校の教育活動は、日頃より多くの方々の御協力があって常に充実したものとなっている。今後も深い愛情を持ち柔軟な視点から応援できるような環境づくりに努めていただきたい。
- ・生徒らに社会的意識を今以上に持ってもらうような取り組みをお願いしたい。

# 『 評 価 書 』

福島県立安積高等学校

平成29年3月 学校評議員による評価

学 校 評 議 員 に よ る 評 価	学校からのコメント及び 次年度に向けての方向性
<p>I 学校における自己評価活動の取組み</p> <p>I. 1 『学校経営・運営ビジョン』と校内組織体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営・運営ビジョンは適切である。評価活動は組織的になされており、教職員に浸透している。</li> <li>・評価計画は適切であるが、保護者アンケートの結果全体から見ると保護者の理解については改善の余地がある。</li> <li>・理想的な内容になっていると思うが、最近の社会情勢から更なる自主自律、家庭教育、道徳などについて重要視し、生徒を守る意識を強化するという事も考えられる。</li> </ul>	<p>生徒・保護者・地域住民等からの要望や意見を参考に、安高の在るべき姿を学校経営・運営ビジョンに反映させ、PDCAサイクルが有効に機能するよう、組織的で実効性のある評価活動を継続していく。</p>
<p>I. 2 『学校経営・運営ビジョン』の展開と自己評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「進路の実現」については、最重点目標として常に前進しているように思う。「教育環境の整備」については努力しているものの評価アンケート結果などからまだ十分とは言い難く、更に一層の努力対応が必要と思います。</li> <li>・教員間の温度差が感じられ、意識の更なる向上が必要。</li> <li>・評価活動における反省点が具体的であり学校改善に向かうものと思われる。</li> </ul>	<p>自己評価アンケートの結果を教職員全体で共有し、課題解決のために、改善策をより具体的な項目として策定し、次年度に向けて組織的に、実効性を持って取り組んでいく。</p>
<p>I. 3 広報とアンケート等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の活動等をお知らせする新聞等の発行やアンケートの実施は十分と思われる。</li> <li>・オープンスクールの参加者からのアンケート回答で学校を理解する上で参考となるなど広報活動について一定の評価が得られている。</li> </ul>	<p>今後とも積極的に広報活動を行う。加えて学校HPを充実させることで、情報提供、発信をしていく。</p>
<p>I. 4 取組み状況全体について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果から“相談できる先生がいる”と回答している生徒の割合がやや低い。教員にはより積極的にことばをかけていただき、相談しやすい雰囲気をつくることをお願いしたい。また“社会や地域の人々に関わる機会を設ける”という視点が不足しているので検討を要する。</li> <li>・アンケート結果のうち、「悩みの相談」、「学習環境」、「学校環境の美化」についてやや低めであることについて取り組みを進めていただきたい。</li> </ul>	<p>生徒へのことばかけを増やすとともに面談の機会を重視する。学習環境の施設設備については、できるところから対応していくとともに、清掃を徹底するなど学校美化に向けた取り組みを推進する。</p>

<p>Ⅱ 自己評価活動と学校評価全体への学校の組織的な取り組みとその改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全般にわたりいろいろな工夫と努力で取り組まれており、大いに評価できる。ただし、教育環境の整備という点ではまだ改善の余地がある。継続して更に取り組む必要がある。</li> <li>・評価アンケートの回答からは、保護者への学校活動全体の提示は十分にされていると見られるが、満足度の点では改善が一部必要である。</li> </ul>	<p>これまでのとおり自己評価によって浮かび上がった課題について、改善し、実行するというPDCAサイクルを組織的に行う。今年度挙げられた課題については、次年度に改善策を優先して実行し、次のPDCAサイクルを廻すこととする。</p>
<p>Ⅲ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安積高校の施設設備は古い建物であることが問題ではなく、手入れの方法であったり、使っている備品や空間の色彩を学習に適するものに工夫することとで対応できると考えます。地域のモデルとして率先して取り組み、成果に結びつけていただきたい。</li> <li>・全体的に見れば大変努力している。今後も地域のリーダー校として頑張っていただきたい。</li> </ul>	<p>学校評議員の方々の意見や提言を真摯に受け止め、学校評価活動が実のあるものになるよう具体的な改善策を講じる。地域のリーダー校の自覚のもと、具体的で実効性のある計画を作成し、地域に信頼される安積高校を創っていきたい。</p>